

指導の重点	具体的な取組	具体的評価の観点	分析・検証(中間期)	年度後半等に向けての改善点	分析・検証(年度末)	職員評価	学校運営協議会の評価	総合評価
異校種間の連携推進と地域と協働的な活動の推進	かつたっ子15の春プロジェクト	①異校種間の連携行事の実施により、子ども達のつながりを強め、育ちと学びを確立させる。	【実施した連携行事】 ○小学5、6年英語の授業(6回) ○小中合同人権講演会 ○2小学校との合同クリーン活動	前半同様に、計画に沿って連携行事を実施する。	【実施した連携行事】 ○小学5、6年英語の授業(年12回)実施。 ○人権教育講演会 ○クリーン活動 ○学びの集会(地域の方も参加し交流できた) ○ひまわり園との保育実習(コロナ禍後久しぶりにひまわり園での実施となった。) ○夢講座[講師:道上真世(元みまちゃんネルアナウンサー)] 【来年度へ向けて】 児童・生徒数が減少するなかで、持続可能な連携活動を継続し、子ども達の保幼小中のスムーズな接続と成長へつなげる。	A	○保幼小中の連携を強化し、色々な行事にお互い参加し協力をして一層高めて欲しい。 ○保幼小中の一貫性のある教育は、大変難しい事だと思いますが、長期間継続して行く事で、素晴らしい教育となっていくと期待しています。	A
		②連携だより、ホームページ、報道等での学校の様子を伝える。	連携だよりを保幼小中で発行、ホームページにも掲載。また、ホームページや各種報道(みまちゃんネル、新聞)を活用し、異校種間の連携の様子を地域にも伝えることができた。みまちゃんネルの放映内容を職員室前ロビーにて放映し、生徒や来客者にも見ていただいている。	継続した発信により、生徒の活動についての努力、成果を認めることで自己肯定感を高めるていく。また、教育活動の様子を発信することで、地域の方に中学校の取組や生徒の姿を知ってもらう。	連携だよりを年間3回発行し、異校種間の連携の様子を地域にも伝えることができた。学校の様子をケーブルテレビでも紹介して頂き地域にも学校の様子を伝えた。 【来年度へ向けて】 学校の教育活動を広く発信し、地域に中学校の取組や様子を知っていただくことで、中学校への関心を強め、行事への参加していただく場も増やすことで地域と学校がつながる力を強化していく。	A	○概ね評価できる。 ○連携は良くできている。地域の人に活動が周知されると声かけもしてもらえて良い。 ○地域の行事に参加したり、勝田地域にある工場の見学などを行い中学校を認めてもらいながら協働活動の参加者を増加してもらいたい。 ○学校支援ボランティアへの参加者を増やしていきたい。 ○学校を通した元気な地域づくりを進めていきたい。	
		○教職員の各部会、合同研修会の実施により、勝田中学校区の教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けて取組を推進する。 【学校評価アンケート(教職員)】 ○中学校区の校・園が連携して異校種間のつながりを意識した一貫性のある教育を行う。	かつたっ子15の春プロジェクトの各部会(経営部会[校長]・運営部会[教頭]・学力向上部会・生徒指導部会・養護部会・特別支援教育部会・人権教育部会・英語担当者会)で学期に1回以上は部会を行い、合同研修会を開催し、連携事項の共有と確認ができた。	各部会での取組や合同研修会を受け、教職員が同じ方向性で取り組むことで、課題解決を進める。	【学校評価アンケート(教職員)】 ○「中学校区の校・園が連携して異校種間のつながりを意識した一貫性のある教育を行う。」の肯定率100% 【部会、合同研修会】 計画通りに部会、合同研修会を計画的に実施でき、勝田中学校区の園・小の先生方と課題解決へ向けて情報の共有や教育活動を協働して行うことができた。 【来年度へ向けて】 来年度も勝田中学校区の校園と連携してかつたっ子の課題を分析し、課題解決に向けて取組を整理しながら実践を積み重ねていく。	A		
	地域学校協働活動	○地域との交流活動について ①【全国学調15、県学調10】人の役に立つ人間になりたいと思う。 ②【県学調23】今住んでいる地域の行事に参加しましたか。 ③【全国学調25、県学調24】地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか。 ④【県学調22】自分が住んでいる地域が好きである。	<全国・県学調より中間期の肯定率> ①1年91.6%(当てはまる83.3%) 2年88.9%(当てはまる66.7%) 3年100%(当てはまる91.7%) ②1年83.4%(当てはまる41.7%) 2年77.8%(当てはまる55.6%) ③1年83.3%(当てはまる25.0%) 2年55.6%(当てはまる55.6%) 3年100%(当てはまる66.7%) ④1年83.3%(当てはまる58.3%) 2年88.9%(当てはまる66.7%)	学校支援ボランティアの登録も増加し、R6年度よりも活動も増えている。後半は、支援以外にも各種行事への参加を呼びかけ、生徒と地域の方の交流の場面を増やしていく。	<校内アンケートより肯定率> *中間期の数値より上がっている場合は赤字表記 ①1年92%(当てはまる67%) 2年100%(当てはまる60%) 3年100%(当てはまる100%) ②1年83%(当てはまる50%) 2年90%(当てはまる80%) 3年83.0%(当てはまる42%) ③1年100%(当てはまる25%) 2年80%(当てはまる40%) 3年100%(当てはまる50%) ④1年83%(当てはまる50%) 2年80%(当てはまる60%) 3年100%(当てはまる50.0%)	A		
		コミュニティ・スクール		【学校運営協議会の開催】 第1回5/8 年度当初の会 第2回8/6 美作市教委主催の合同研修会へ参加し、学校運営協議会委員と教職員が熟議体験できた。 第3回11/13には、学校運営協議会委員と新生徒会執行部役員が意見交流する予定。 第4回2/12 本年度のまとめと来年度へ向けての会の予定。	【今年度の成果】 ○地域学校協働活動は、学校支援ボランティアの登録数、活動数も増加している。学校行事への支援参加では、生徒と地域の方の交流の場面にもなっている。また、環境整備の面では校内草刈り作業週間や図書館整備、プール掃除等、教職員や生徒だけで行うよりも、かなりの業務の軽減となっていて助かっている。 ○今年度からスタートしたコミュニティ・スクールの活動も学校運営協議会委員と教職員や生徒が交流する場面もあり、地域と学校が協働的に子どもたちを育てる素地作りができた。 【来年度へ向けて】 ○来年度本格的に進めていく地域学習(総合的な学習の時間)や探究的な学習においても、地域の方と協力して学習を進めていくことで、地域学校協働活動をより充実させていく。 ○勝田中学校区CSの学校運営協議会委員同士の交流の場も設定し、勝田地域のCSの活動をより一層進めたい。学校運営協議会委員・生徒・教職員・保護者の連携がより強化できるように、学校運営協議会の設定(日時・内容等)を効果的にしていく。	A		